

令和2年度美里町町民健康調査結果の概要

目次	(ページ数)
I 調査の概要	1
II 結果の概要	2
(1)身体状況・健康について	2
①肥満及びやせの状況	2～4
②健康状態	4
(2)身体活動・運動について	4
①運動習慣者及び歩数の状況、身体活動への意識	4
②ロコモティブシンドロームの認知度	4
(3)食生活について	5
①朝食の摂取状況	5
②外食・中食の使用頻度	6
③食生活への意識	7
④塩分や間食の摂取状況	8
(4)歯について	9
①保有歯の状況	9
②歯科健診の受診及びかかりつけ歯科医の状況	9～10
(5)休養について	10
①睡眠の状況	10
②ストレスや悩みの状況	11～12
③ゲートキーパーの認知度	12
(6)お酒について	13
①飲酒量及び頻度の状況	13
②適度な飲酒量の認知度	14
(7)たばこについて	14
①喫煙の状況	14
②禁煙意志の有無の状況	14
③たばこの健康被害の認知度及び受動喫煙の状況	15
(8)健康増進計画・食育推進計画の認知度	16
(9)食育について	16
①郷土食の認知度	16
②町内特産物の認知度	16～17
③食に関する用語や表示の認知度	17
④食品購入時の意識	18
⑤共食の状況	18
⑥感染症予防の意識	19

I 調査の概要

1. 調査目的

平成24年7月に策定された美里町健康増進計画「健康みさと21」及び「第2期美里町食育推進計画」の最終評価の時期に当たり、町民の健康に関する意識や食生活、運動等に関する実態及び課題を把握し、計画の評価と見直しの基礎資料として活用するため。

2. 調査実施機関

美里町健康福祉課

3. 調査対象

性別、年代別に無作為抽出した20歳以上の町民1,409人を調査対象に行った。

1,146人の回収(回収率81.3%)有効回答数1,078人(有効回答率94.1%)であった。(表1)

表1 健康調査票有効回答数

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～70歳	合計
男性(人)	93	92	94	103	106	488
女性(人)	99	103	122	133	133	590
合計(人)	192	195	216	236	237	1,078
割合	17.8%	18.1%	20.0%	21.9%	22.0%	100%

4. 調査項目

県・国の動きや計画、調査等との整合性を図りながら、計画等策定時の項目を基本とし、継続評価できる項目で実施した。

①身体状況・健康 ②身体活動・運動 ③食生活 ④歯 ⑤休養 ⑥お酒 ⑦たばこ ⑧医療等の受診状況 ⑨健康増進計画・食育推進計画 ⑩食育について

5. 調査時期

令和3年1月

6. 調査方法

- ① 無記名の自記入式質問調査票を作成し、美里町健康協力員が配布する。
- ② 回収用封筒に調査票を入れ、封をした状態で美里町健康協力員に回収してもらい、回収した封筒のまま担当課へ提出してもらう。

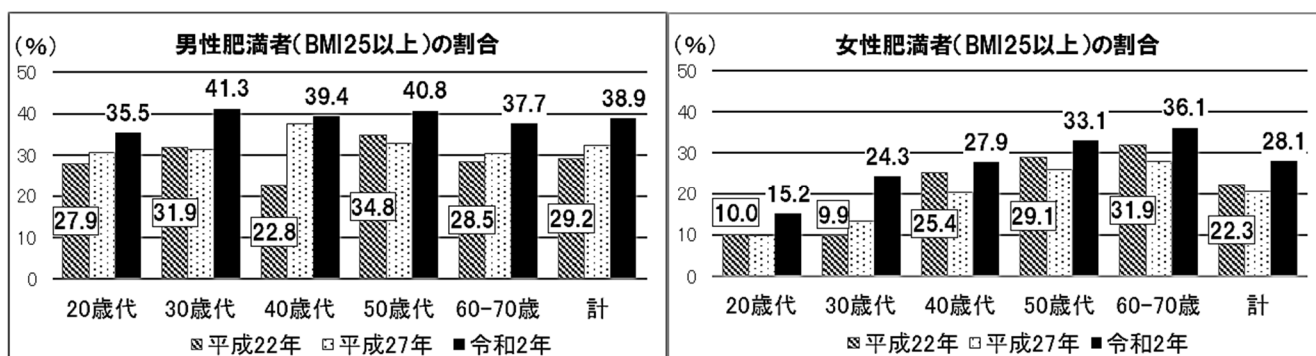
Ⅱ 結果の概要

(1) 身体状況・健康について

① 肥満及びやせの状況

成人の肥満者(BMI25以上)の割合は、男性は平成22年から年々増加し38.9%となっています。年代別では、全年代で3割を超え、30歳代と50歳代は4割を超えています。成人女性の肥満者の割合は、平成22年と比較し2割以上増加し28.1%となっています。年代別でみると、年代が上がるのに比例して割合も高くなり、60歳代が36.1%と最も高くなっています。

また、女性のやせ(BMI18.5未満)の割合は、平成22年4.2%から令和2年9.3%となっており、年代別にみると、全年代で増加しています。



女性のやせ(BMI18.5未満)の割合

(%)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	6.4	6.3	2.9	3.5	2.8	4.2
平成27年	16.5	12.3	5.6	8.9	8.2	9.8
令和2年	16.2	8.7	4.1	9.8	9.0	9.3

② 健康状態

この1か月間の自分の健康状態を、「あまりよくない」「よくない」と回答した人の割合は、年代別でみると、男性は60～70歳が最も多く18.9%、女性は20歳代が最も多く20.8%となっています。男性は平成22年と比較し、やや増加しています。

この1か月の自分の健康状態がよくない人(「よくない」・「あまりよくない」と回答)の割合

男性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	10.8%	9.3%	13.7%	11.0%	12.0%	11.4%
平成27年	7.1%	10.9%	10.4%	15.0%	19.8%	13.2%
令和2年	10.9%	11.0%	14.9%	13.6%	18.9%	14.0%

女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	15.2%	19.0%	22.5%	15.5%	16.4%	17.8%
平成27年	20.8%	15.5%	17.6%	18.2%	9.5%	16.0%
令和2年	20.8%	15.5%	17.6%	18.2%	9.5%	16.0%

自分がちょうどよいと思う体重に近づく努力をしている人の割合は、男女ともに平成 22 年に比べ令和2年は減少しています。また、体重を定期的(週1回以上)に測っている人の割合は、男性 21.2%、女性 31.5%と女性の方が多くなっています。

血圧の正常値を知っている人の割合は、男女とも平成 22 年と比較し 10%以上減少しています。また、年代別にみると若い年代ほど低くなっています。

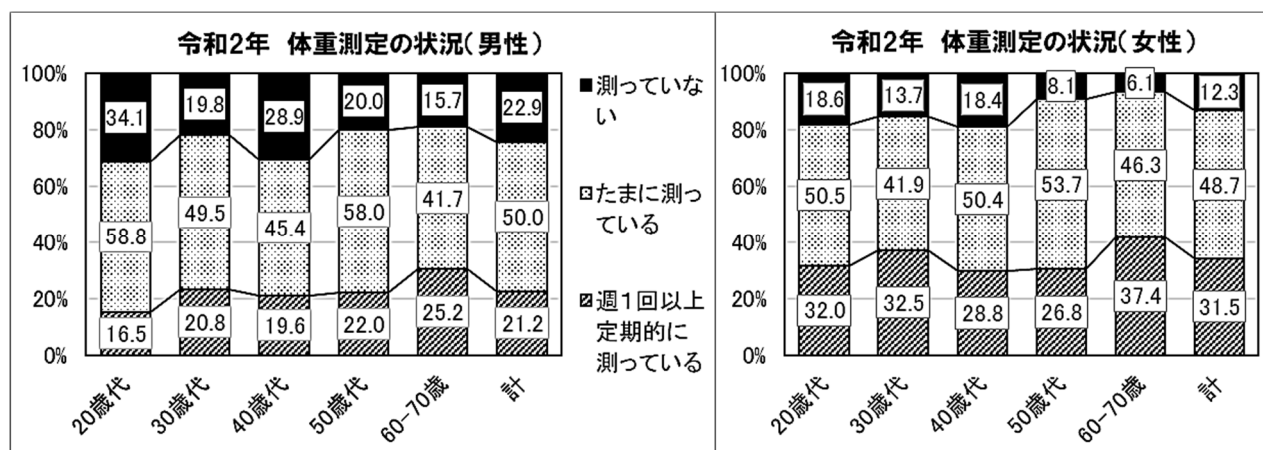
自分の血圧を毎日測定している人の割合は、男性 7.7%、女性 7.3%となっており、年代別では、若い年代ほど測定していない割合が高くなっています。

自分がちょうどよいと思っている体重に

近づく(維持する)ように心がけたり努力したりしている人の割合

男性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	48.6%	58.5%	55.2%	67.5%	67.2%	59.6%
平成27年	45.2%	42.4%	48.9%	57.1%	68.3%	53.5%
令和2年	53.3%	57.8%	48.4%	62.0%	67.0%	58.0%

女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	67.6%	71.9%	76.1%	70.4%	84.3%	74.4%
平成27年	55.2%	61.2%	57.3%	70.5%	75.3%	65.0%
令和2年	64.6%	59.2%	68.0%	66.4%	73.8%	66.8%



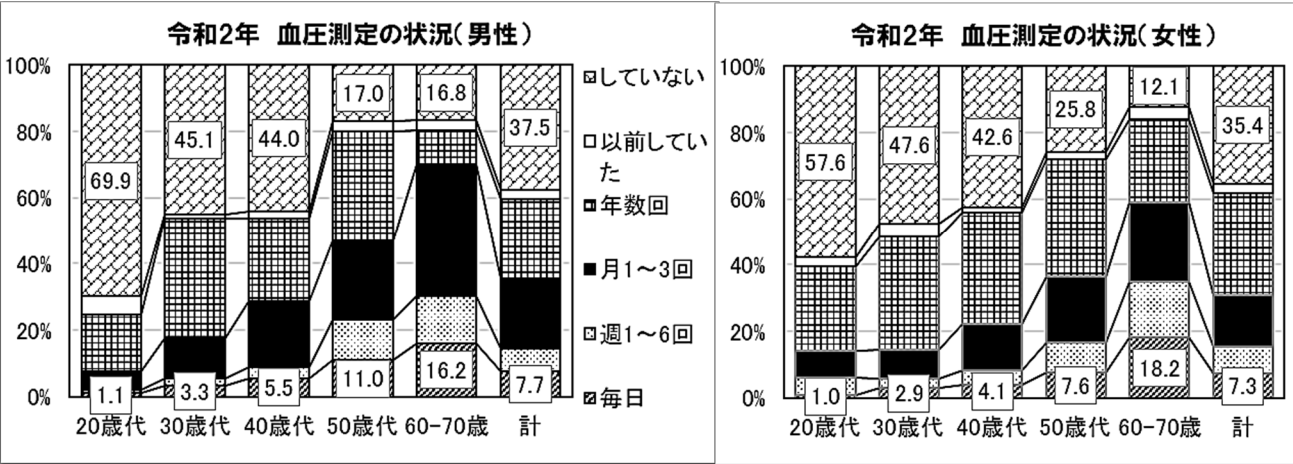
正常血圧値を知っている人の割合

男性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	54.1%	65.5%	76.3%	87.8%	84.9%	73.9%
平成27年	92.3%	81.6%	74.1%	73.1%	75.8%	76.4%
令和2年	43.2%	53.4%	54.4%	74.2%	79.8%	61.9%

女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	54.5%	74.4%	85.6%	89.8%	90.0%	79.8%
平成27年	66.7%	75.0%	77.6%	76.1%	81.1%	77.1%
令和2年	50.0%	58.6%	66.7%	79.2%	82.3%	69.0%

※平成27年の正常値は139/89mmHg以下、令和2年の正常値は120/80mmHg以下としている

※平成27年は、正常値×正常だと思う＋正常値以外×正常と思わない と回答した者の割合



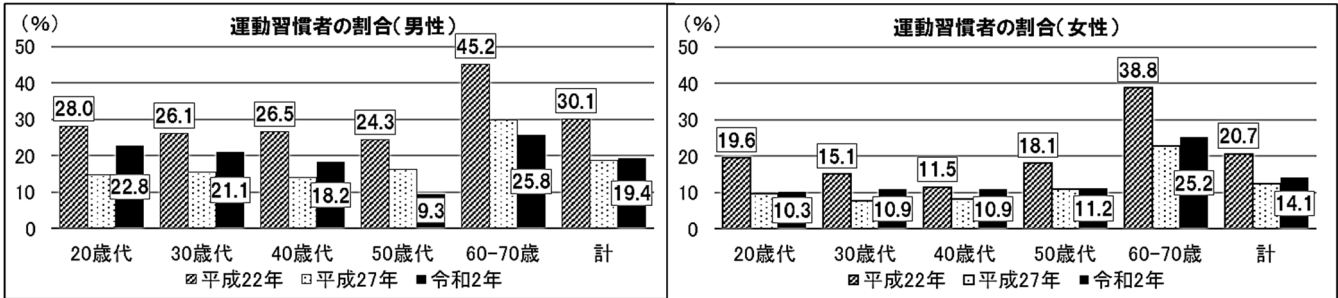
(2)身体活動・運動について

①運動習慣者及び歩数の状況、身体活動への意識

運動習慣のある人(1回 30 分以上を週2日以上実施し、1年以上継続している人)の割合は、平成 22 年と比較し、男女とも全ての年代で減少していますが、特に男性の 50 歳代と 60～70 歳で 15%以上減少しています。

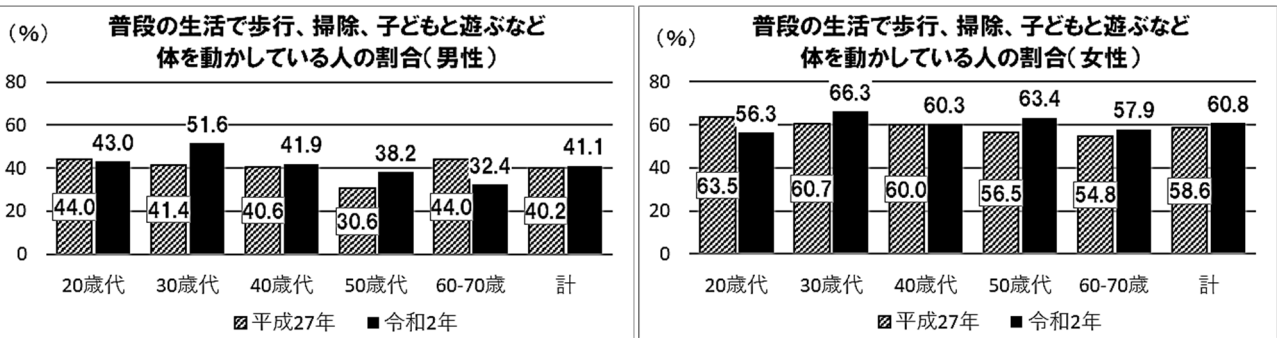
自分の1日の歩数を知っている人の割合は21.9%で、その歩数の平均は、男性 7, 117 歩、女性 5, 435 歩となっています。

普段の生活で歩行、そうじ、階段の上り下り、子どもと遊ぶなど体を動かしている人の割合は、平成 27 年と比較し、男女とも微増しています。性別で見ると、男性は 41.1%、女性は 60.8%となっており、男性より女性の方が高い状況です。



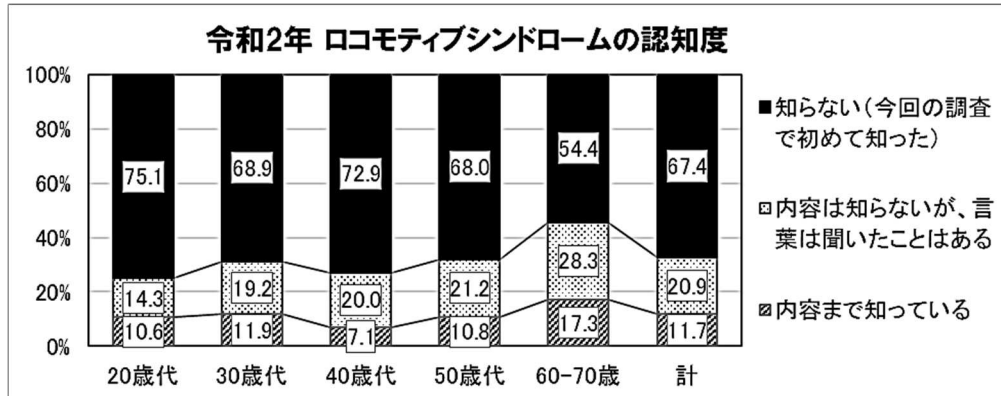
令和2年 1日の平均歩数(男女別) ※100歩未満5万歩以上は除く。

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～70歳	計	※回答人数
男性	6846	8110	8231	7038	6279	7117	110
女性	6310	5184	5887	5359	5101	5435	122
総計	6578	6522	6901	6269	5619	6233	232



②ロコモティブシンドロームの認知度

ロコモティブシンドロームを知っている人(「内容まで知っている」と回答)の割合は、11.7%で、聞いたことがある人を含めても約3割という状況です。



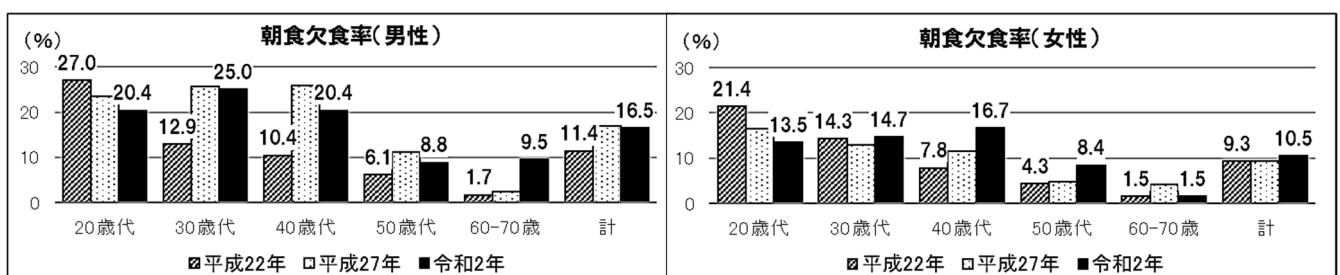
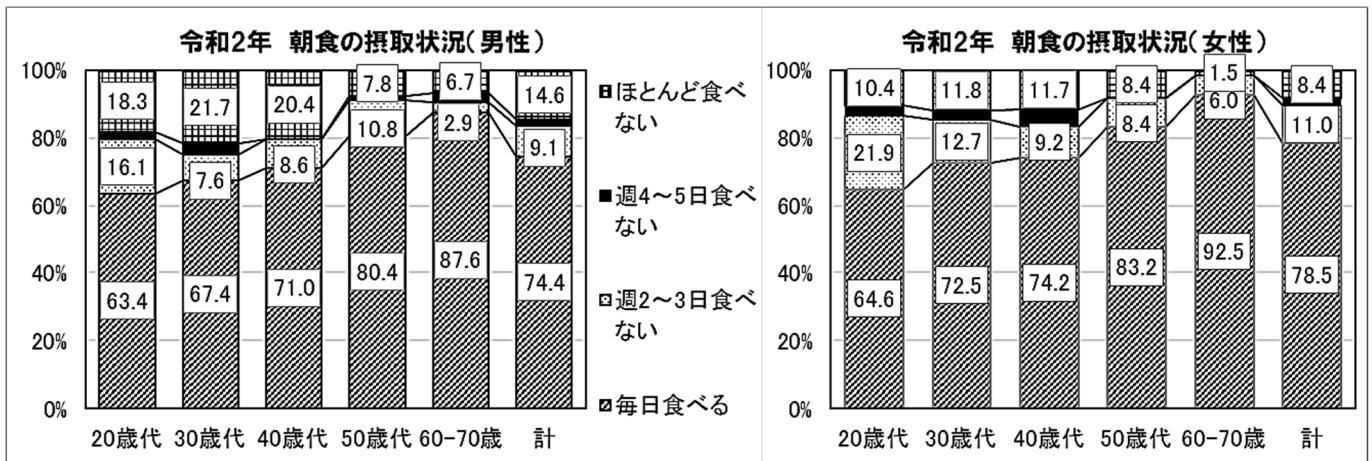
※ロコモティブシンドローム(略称:ロコモ)は、運動器症候群ともいいます。筋肉、骨、関節などといった運動器のいずれか、あるいは複数に障害が起こり、歩行や日常生活に何らかの障害をきたし、その運動器の障害のために移動能力の低下をきたして、要介護になったり、要介護になる危険の高い状態をいいます。

(3)食生活について

①朝食の摂取状況

令和2年の朝食摂取状況について、男性は30歳代、40歳代でほとんど食べない人の割合が2割を超えています。また、男女とも若い年代ほど毎日食べる割合が低い傾向となっています。

朝食欠食率(「ほとんど食べない」「週4~5日食べない」と回答)について、平成22年と比較すると、男女とも20歳代は減少しています。また、男性では20歳代を除くすべての年代で増加し、女性では40~50歳代で増加しています。



② 外食・中食(*1)の利用頻度

外食等の使用頻度が毎日1回以上の人の割合について、平成22年と比較し男性は20歳代で17.1%から8.6%へ減少し、50歳代で13.0%から18.6%へやや増加しています。同様の比較で、女性は全年代で増加しています。

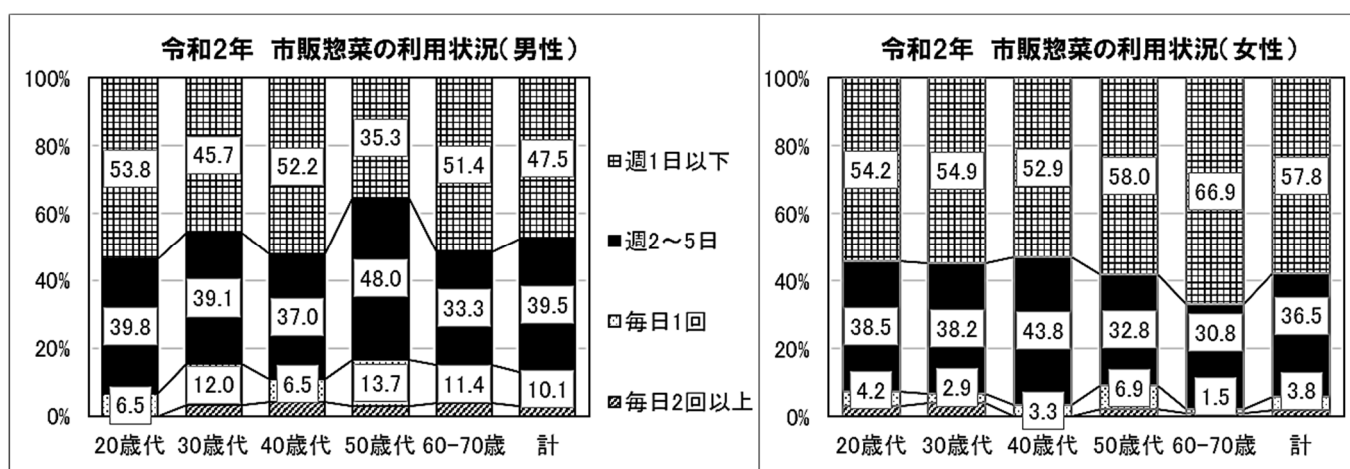
令和2年の市販惣菜利用状況について、毎日1回以上利用している割合は男性13.0%、女性5.7%となっており、女性より男性の方が利用頻度が高くなっています。また、年代別にみると、男女ともに50歳代が最も高くなっています。

*1 中食…調理済みの食品を購入し、自宅や職場などで食べる。具体的には、惣菜、寿司、おにぎり、サンドイッチ、弁当などをデパ地下やコンビニエンス・ストアなどで買ったり、宅配(デリバリー)によって入手し、それを家などで食べることである。

外食(市販弁当などの利用も含む)の使用頻度(毎日1回以上利用している人)の割合(%)

男性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	17.1	17.2	18.6	13.0	5.8	14.3
平成27年	12.9	16.8	20.8	13.3	7.3	13.9
令和2年	8.6	16.3	16.1	18.6	6.7	13.2

女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	7.2	7.6	2.1	2.9	1.5	4.0
平成27年	11.3	9.6	8.2	6.8	1.4	7.1
令和2年	10.4	11.8	11.7	5.3	3.0	8.1



令和2年 市販惣菜を毎日1回以上利用している(「毎日1回」「毎日2回以上」と回答)人の割合(%)

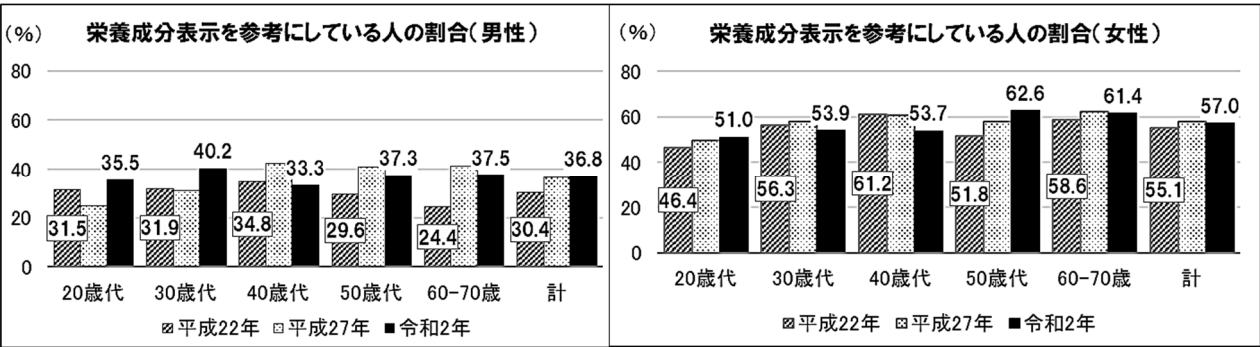
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
男性	6.5	15.2	10.9	16.7	15.2	13.0
女性	7.3	6.9	3.3	9.2	2.3	5.7
計	6.9	10.8	6.6	12.5	8.0	90.0

③食生活への意識

外食や食品購入の際に栄養成分表示を参考にしている人(「いつもしている」「時々している」と回答)の割合は、平成 22 年と比較すると男性は 30.4%から 36.8%に増加、女性は 55.1%から 57.0%と横ばいです。

成人1人1日あたりの野菜の目安量は 350g以上であることを知っている人の割合は、平成 22 年と比較し男性は 32.3%から 38.6%に増加、女性は 56.4%から 55.8%と横ばいです。

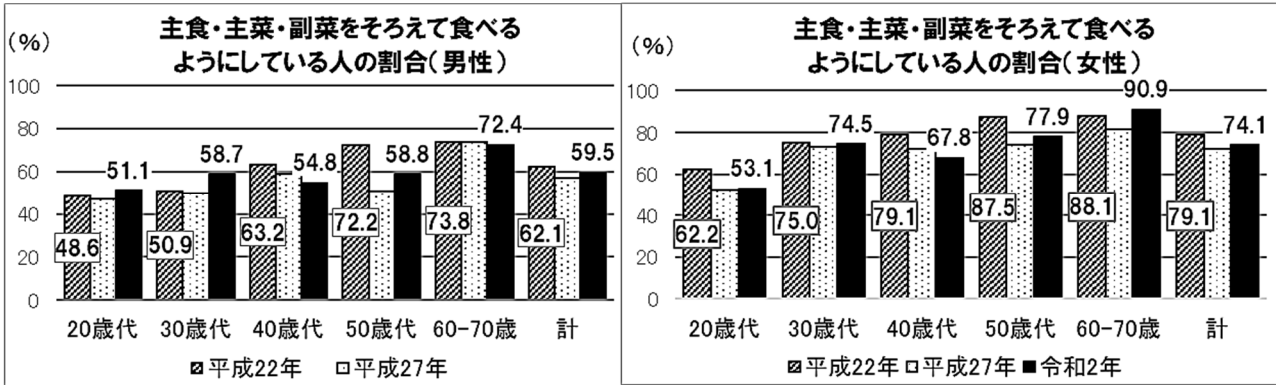
主食・主菜・副菜をそろえて食べるようにしている成人の割合は、年代別でみると男女ともに若い年代ほど低く、20 歳代で約5割となっています。また、平成 22 年との比較では、男性が 62.1%から 59.5%、女性 79.1%から 74.1%となっており、男女ともわずかに減少しています。



成人1人1日あたりの野菜の目安量は350g以上であることを知っている人の割合

性別	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
男性	31.5%	27.6%	29.6%	31.3%	41.2%	32.3%
平成22年	31.5%	27.6%	29.6%	31.3%	41.2%	32.3%
平成27年	32.9%	28.0%	24.7%	25.5%	37.4%	30.0%
令和2年	36.6%	41.3%	40.9%	35.3%	39.0%	38.6%

性別	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
女性	45.9%	46.6%	50.4%	62.6%	73.3%	56.4%
平成22年	45.9%	46.6%	50.4%	62.6%	73.3%	56.4%
平成27年	50.5%	48.3%	53.3%	53.7%	64.8%	54.7%
令和2年	49.0%	56.9%	47.1%	55.4%	68.2%	55.8%

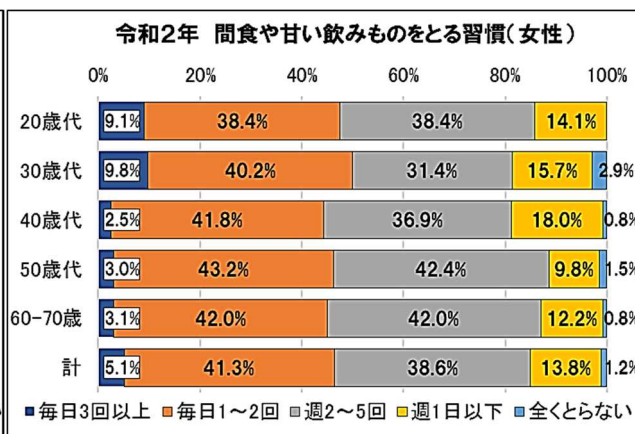
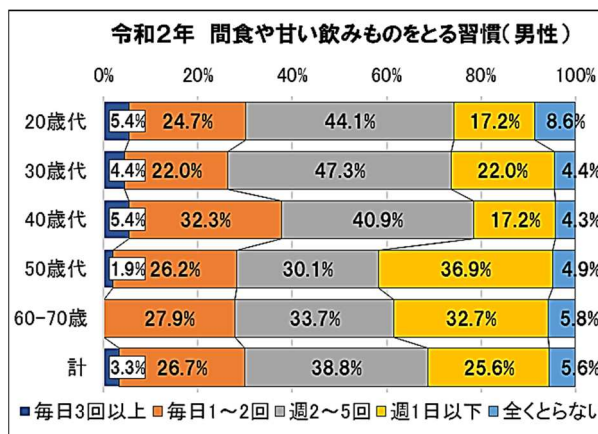
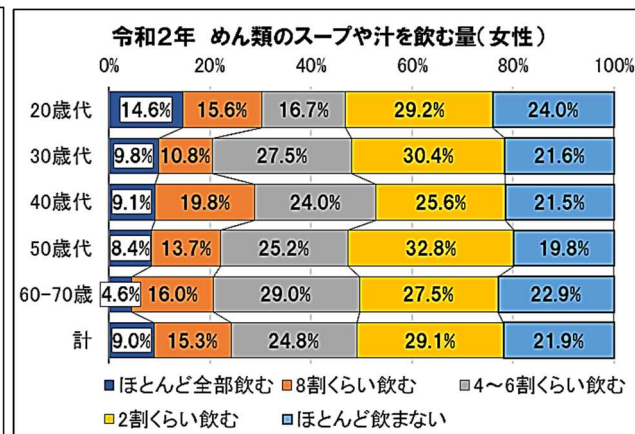
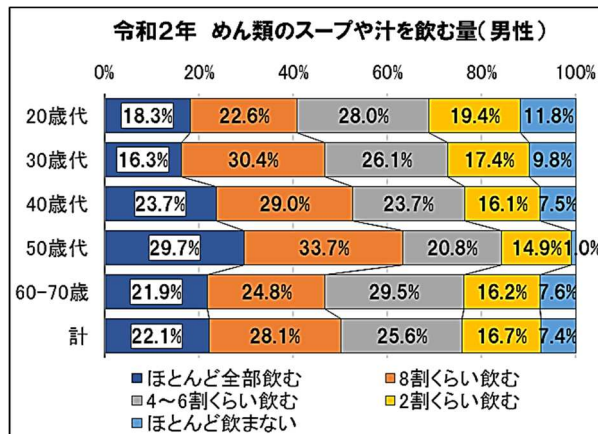
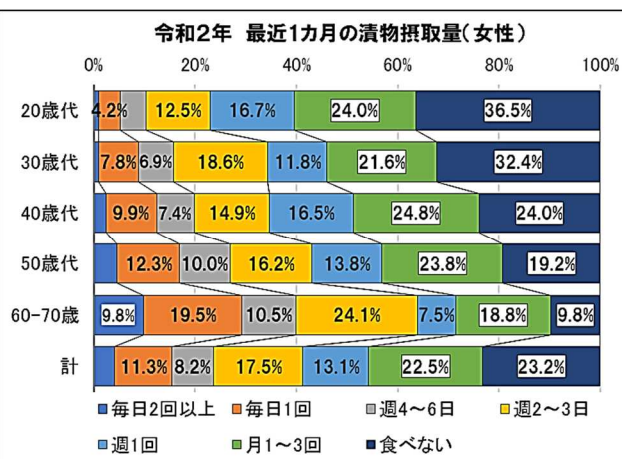
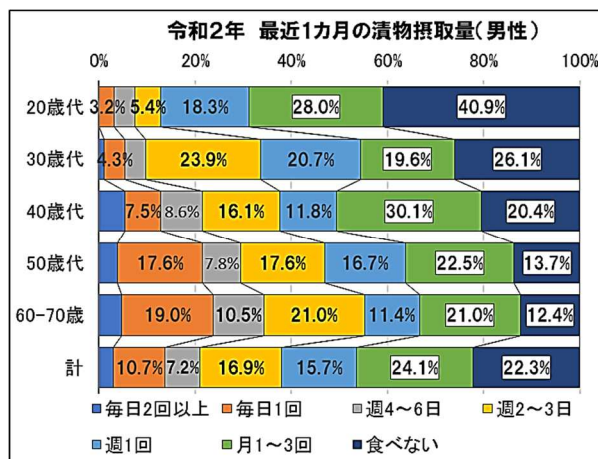


④塩分や間食の摂取状況

令和2年の漬物の摂取頻度は、男女とも若い年代ほど食べる頻度は低くなっており、男女差は見られません。

麺類のスープや汁を飲む量については、ほとんど全部飲む人の割合が、男性は約2割、女性は約1割となっています。年代別にみると、男性では50歳代で29.7%と最も多く、女性は20歳代が14.6%と最も多くなっています。

間食や甘い飲みものをとる習慣について、毎日1回以上とる人の割合は、男性30.0%、女性46.4%となっており、男性より女性で多くなっています。



(4)歯について**①保有歯の状況**

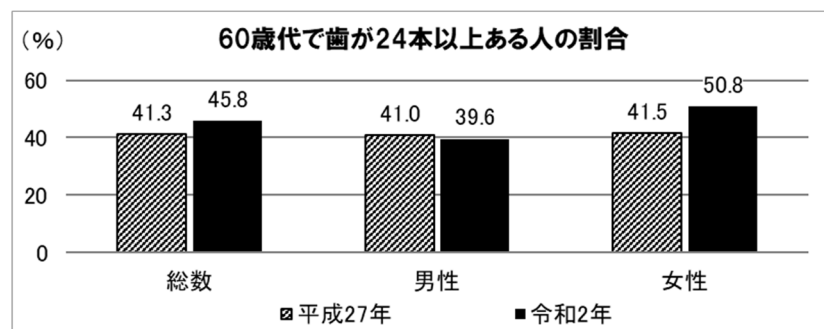
令和2年の保有歯の状況について、20 本未満と回答した人の割合は、男性 11.5%、女性 9.7%となっており、年々減少(平成 27 年は男性 17.7%、女性 14.0%)しています。また、60 歳代で歯が 24 本以上ある人の割合は、平成 27 年 41.3%から令和2年 45.8%に増えています。性別でみると、男性は 41.0%から 39.6%とわずかに減少し、女性は 41.5%から 50.8%と増加しています。

令和2年 歯の本数の状況(性・年代別)

(%)

男性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
28本	88.2	68.4	52.6	32.7	12.1	49.4
25～27本	10.8	18.9	28.4	27.9	19.6	21.3
20～24本	1.1	8.4	14.7	24.0	37.4	17.8
10～19本	0.0	2.1	4.2	13.5	24.3	9.3
1～9本	0.0	1.1	0.0	1.9	4.7	1.6
0本	0.0	1.1	0.0	0.0	1.9	0.6

女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
28本	86.7	61.2	58.2	35.9	15.2	48.8
25～27本	8.2	24.3	26.2	31.3	26.5	24.1
20～24本	5.1	10.7	12.3	20.6	33.3	17.4
10～19本	0.0	1.9	3.3	10.7	19.7	7.8
1～9本	0.0	1.0	0.0	1.5	3.8	1.4
0本	0.0	1.0	0.0	0.0	1.5	0.5

**②歯科健診の受診及びかかりつけ歯科医の状況**

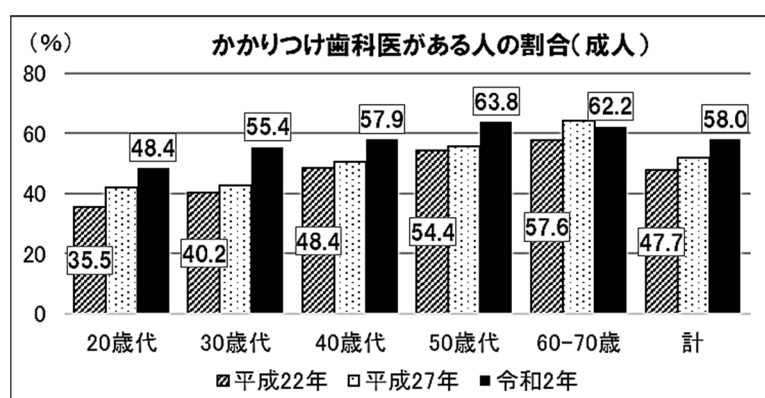
この 1 年間に歯科健康診査を受けたことがある人の割合は、平成 22 年と比較し男性は 32.7%から 40.0%、女性は 36.2%から 48.8%となっており、男女とも増加しています。

かかりつけ歯科医がある人の割合は、平成 22 年 47.7%から令和2年 58.0%となっており、年代別にみても全ての年代で増加しています。

この1年間に歯科健康診査を受けたことがある人の割合

男性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	27.9%	26.1%	31.9%	41.2%	35.5%	32.7%
平成27年	28.2%	25.7%	30.9%	39.0%	50.4%	35.9%
令和2年	29.3%	34.8%	37.2%	46.6%	50.0%	40.0%

女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	33.6%	29.1%	39.9%	40.7%	36.0%	36.2%
平成27年	45.4%	41.0%	57.6%	47.0%	51.0%	48.7%
令和2年	39.4%	47.6%	53.3%	50.8%	50.8%	48.8%



(5)休養について

①睡眠の状況

睡眠により休養がとれていない人(「あまりとれていない」「全くとれていない」と回答)の割合は、令和2年では男性が 23.6%、女性が 24.7%となっており性差はみられませんが、年代別にみると、男性の 50 歳代で 33.0%、女性の 20 歳代で 31.3%とやや高くなっています。

よく眠れるように薬を毎日服用している人の割合は、平成 22 年 2.3%から令和2年 3.2%と微増傾向がみられます。また、令和2年について年代別にみると、男性では 40 歳代が 5.3%、女性では 60～70 歳が 6.8%と最も高くなっています。

睡眠により休養がとれていないと感じている人の割合(「あまりとれていない」「全くとれていない」と回答した人)

男性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	21.0%	25.9%	30.7%	23.0%	10.7%	22.1%
平成27年	25.9%	26.3%	28.4%	21.4%	11.4%	22.0%
令和2年	22.6%	23.9%	25.5%	33.0%	13.2%	23.6%

女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	31.5%	25.6%	35.3%	20.6%	14.7%	25.4%
平成27年	29.8%	23.3%	23.4%	33.3%	16.9%	25.2%
令和2年	31.3%	25.2%	28.7%	24.2%	15.9%	24.7%

よく眠れるように、睡眠薬や安定剤などの薬を「毎日飲む」人の割合

男性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	0.0%	0.0%	2.7%	0.9%	3.3%	1.4%
平成27年	0.0%	2.0%	0.0%	4.1%	4.8%	2.4%
令和2年	0.0%	1.1%	5.3%	3.9%	2.8%	2.7%

女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	1.8%	0.0%	2.9%	5.9%	4.4%	3.1%
平成27年	3.2%	2.6%	1.6%	4.1%	4.1%	4.2%
令和2年	1.0%	2.9%	2.5%	3.8%	6.8%	3.6%

②ストレスや悩みの状況

ストレスが多いと感じている人の割合について、平成22年18.9%から令和2年23.8%と増加傾向がみられます。年代別にみると、20歳代が最も高く32.3%（平成22年23.6%）となっており、次いで30歳代が27.7%（平成22年21.1%）となっています。

ストレス等を自分なりの解決法で処理できている人の割合は、男女合わせて平成22年71.7%、令和2年71.5%と約7割で推移しています。

ストレスが多いと感じている人（ストレスなどを感じる事が「おおいにあった」と回答）の割合

男性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	16.7%	17.1%	21.4%	9.0%	8.4%	14.4%
平成27年	20.0%	20.2%	26.3%	8.2%	8.1%	16.0%
令和2年	21.5%	18.5%	24.5%	19.6%	7.5%	18.1%

女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	30.0%	24.8%	29.9%	15.5%	15.0%	22.8%
平成27年	34.0%	30.2%	28.2%	24.7%	18.3%	26.4%
令和2年	42.4%	35.9%	27.9%	22.7%	19.1%	28.6%

悩み、ストレス等を自分なりの解決法で処理できている人

（「十分できている」「なんとか処理できている」と回答）の割合

(%)

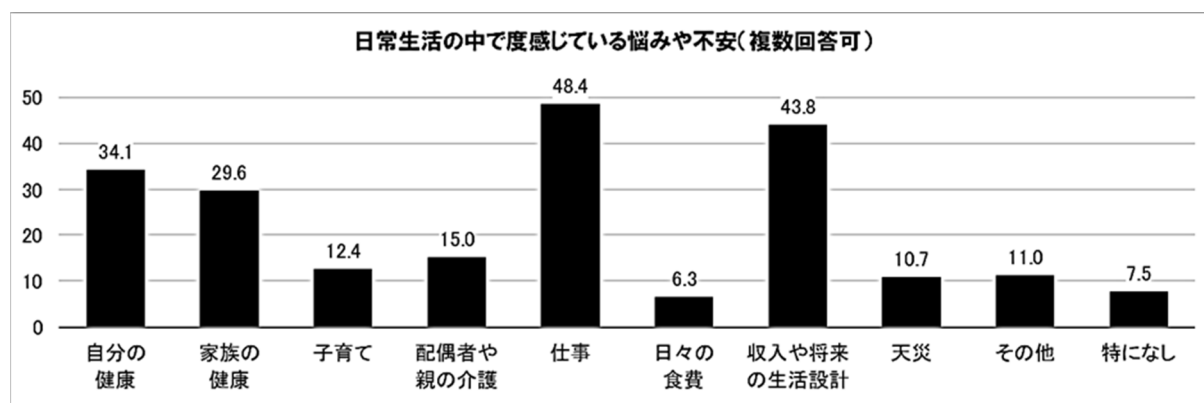
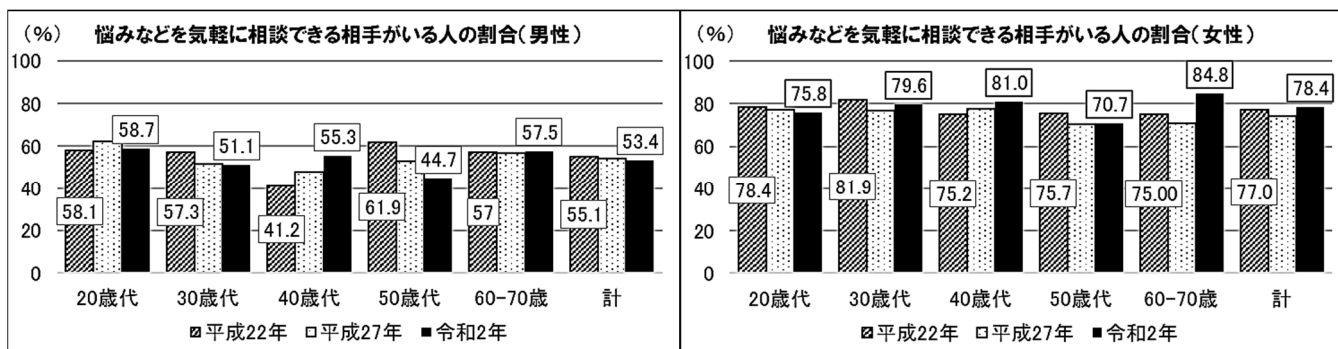
男性	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-70歳	総計
平成22年	77.5	66.7	65.7	68.6	80.0	71.3
平成27年	68.5	65.2	65.5	71.6	73.5	68.9
令和2年	76.3	75.0	63.0	65.9	79.7	71.8

女性	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-70歳	総計
平成22年	68.9	66.4	67.2	73.7	84.5	72.0
平成27年	69.7	69.4	68.6	70.1	84.6	72.6
令和2年	65.6	71.1	69.4	68.8	80.3	71.4

※ストレスが「おおいにあった」「多少あった」「あまりなかった」に○をつけた方が回答

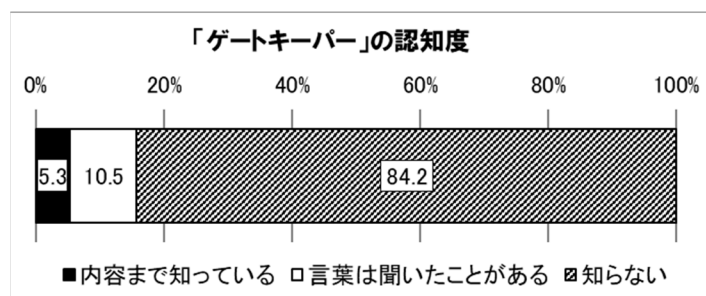
悩みなどを気軽に相談できる相手がいる人の割合は、平成 22 年 66.7%から令和2年 67.1%と微増していますが、令和2年の状況をみると、女性の 78.4%と比較し、男性は 53.4%と低くなっています。

日常生活の中で感じている悩みや不安(複数回答可)については、「仕事」が最も多く 48.4%、次いで収入や将来の生活設計が 43.8%となっています。



③ゲートキーパーの認知度

ゲートキーパーの認知度は、「内容まで知っている」人が 5.3%、「言葉は聞いたことがある」人が 10.5%となっており、知らない人が8割以上を占めています。



(6)お酒について

①飲酒量及び頻度の状況

多量飲酒者(*2)の割合は、男性は減少していますが、女性は減少には至っていません。また、週4日以上3合以上飲んでいる人の割合をみると、全体では 3.4%であり性別では男性に多く、年代では 40 歳代に多い傾向にあります。

生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人(*3)の割合は、平成 27 年との比較でみると、男性では 50 歳代を除き減少しています。女性では 20～30 歳代でわずかに減少していますが、40 歳以降の年代で増加しており、女性全体として 10.7%から 15.3%に増加しています。

*2多量飲酒者…週4日以上かつ1日3合以上(1日に純アルコールで 60g以上)飲酒する人と定義しています。

*3生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人…1日当たりの純アルコール摂取量が男性で 40g以上、女性が 20g以上の者とし、以下の方法で算出。

男性:「毎日×2合以上」+「週5～6日×2合以上」+「週3～4日×3合以上」+
「週1～2日×5合以上」+「月1～3日×5合以上」

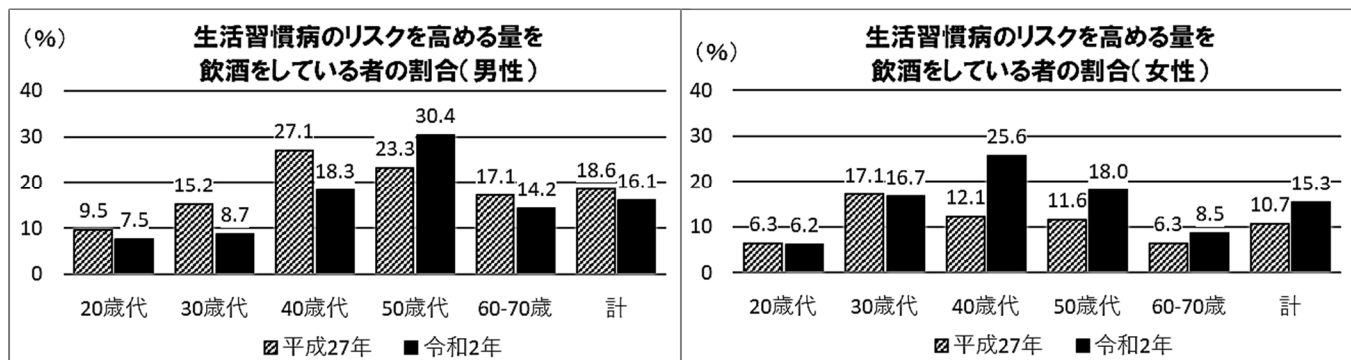
女性:「毎日×1合以上」+「週5～6日×1合以上」+「週3～4日×1合以上」+
「週1～2日×3合以上」+「月1～3日×5合以上」

多量飲酒者の割合

男性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	0.9%	12.7%	6.8%	7.6%	0.8%	5.8%
平成27年	1.2%	7.9%	10.3%	8.0%	5.5%	6.7%
令和2年	3.2%	2.2%	9.7%	7.8%	4.7%	4.7%

女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	0.0%	2.5%	2.1%	0.0%	0.0%	0.9%
平成27年	0.0%	3.4%	1.6%	2.0%	0.0%	1.4%
令和2年	1.0%	2.0%	4.1%	3.8%	2.2%	2.2%

※平成27年・令和2年は、「週3～4日以上」「3合以上」の飲酒で集計



②適度な飲酒量の認知度

適度な飲酒量(*4)を知っている人は 39.4%となっており、平成 27 年に比べ減少傾向にあります。また、年代別でみると、60～70 歳代が 51.0%と半数の人は知っていますが、20 歳代では 27.2%と3割を切っており、若い年代で低い状況です。

*3節度ある適度な飲酒量…「健康日本 21」では、適量として、日本酒に換算して1日1合程度(1日に純アルコールで 20g程度)と定義しています。

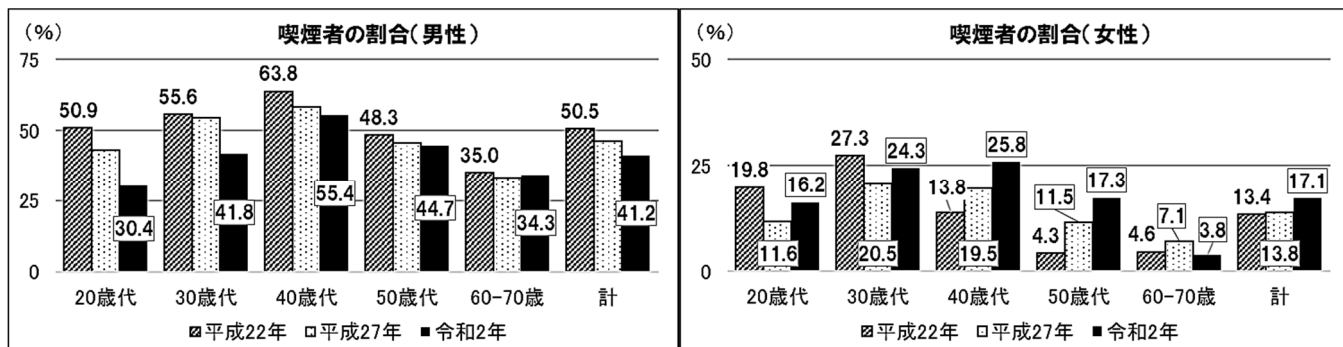
「適度な飲酒量」を知っている人(「1合以下」と回答した人)の割合

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	41.9%	43.0%	45.4%	45.1%	49.0%	44.9%
平成27年	39.9%	35.0%	47.1%	43.0%	44.1%	42.0%
令和2年	27.2%	36.6%	37.4%	43.2%	51.0%	39.4%

(7)たばこについて

①喫煙の状況

男性の喫煙率(「毎日吸う」「時々吸っている」と回答した人の割合)は、平成 22 年 50.5%から令和2年 41.2%と減少しています。一方、女性の喫煙率について平成 27 年との比較では、60～70 歳を除く全ての年代で増加しています。



②禁煙意志の有無の状況

令和2年の喫煙者で、たばこの本数を減らしたい、やめたいと思った(やめようとした)ことがある人の割合は、男女合計で 69.0%となっています。また、そのうち、禁煙外来指導を受けたい人の割合は、平成 22 年と比較し、男女合計で2割程度減少しています。

令和2年 喫煙者で、たばこをやめようとしたこと、やめたいと思ったことがある人の割合

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
やめたい(やめようとした)	27.3%	32.3%	37.0%	31.9%	29.3%	32.3%
本数を減らしたい	29.5%	37.1%	30.9%	37.7%	53.7%	36.7%
やめたくない	20.5%	21.0%	19.8%	17.4%	12.2%	18.5%
わからない	22.7%	9.7%	12.3%	13.0%	4.9%	12.5%

禁煙のための指導を受けたいと思う人(禁煙指導を「ぜひ受けたい」「可能であれば受けたい」と回答)の割合

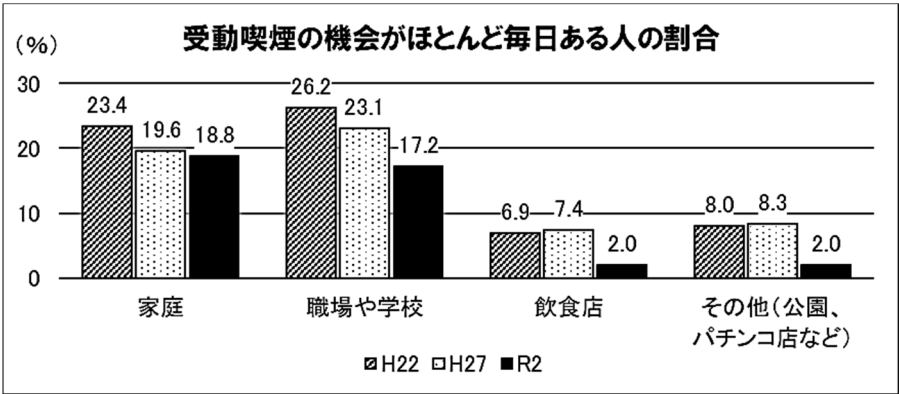
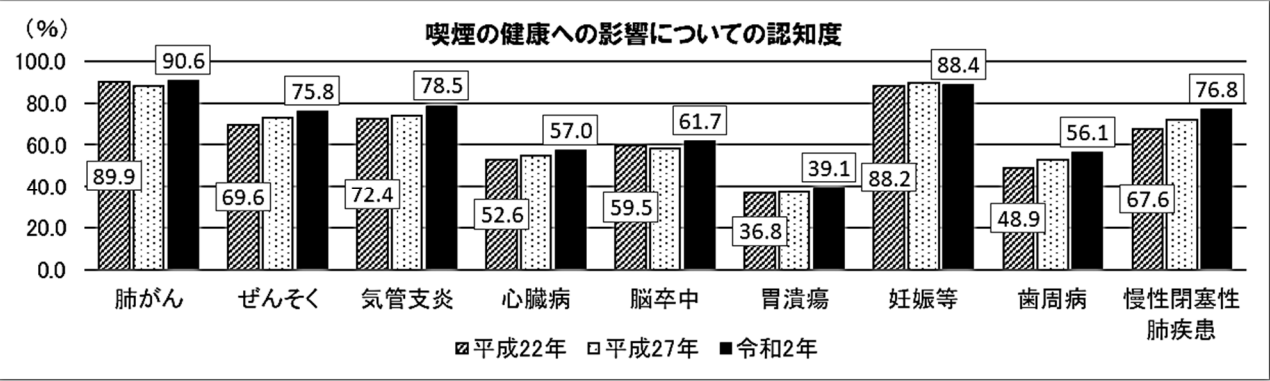
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
平成22年	50.7%	52.9%	43.4%	56.8%	50.0%	51.4%
平成27年	41.6%	28.6%	49.1%	45.8%	42.2%	30.8%
令和2年	30.9%	24.0%	27.9%	25.9%	41.7%	32.4%

※たばこを「やめたい(やめようとした)」「本数を減らしたい」人が回答

③たばこの健康被害の認知度及び受動喫煙の状況

喫煙による健康被害の認知度について、平成 22 年と比較し全ての項目で増加しています。特に、「肺がん」と「妊娠の胎児への影響」については約9割と高い数値を維持しています。また、「歯周病」と「慢性閉塞性肺疾患(COPD)」は、1割以上の増加がみられます。

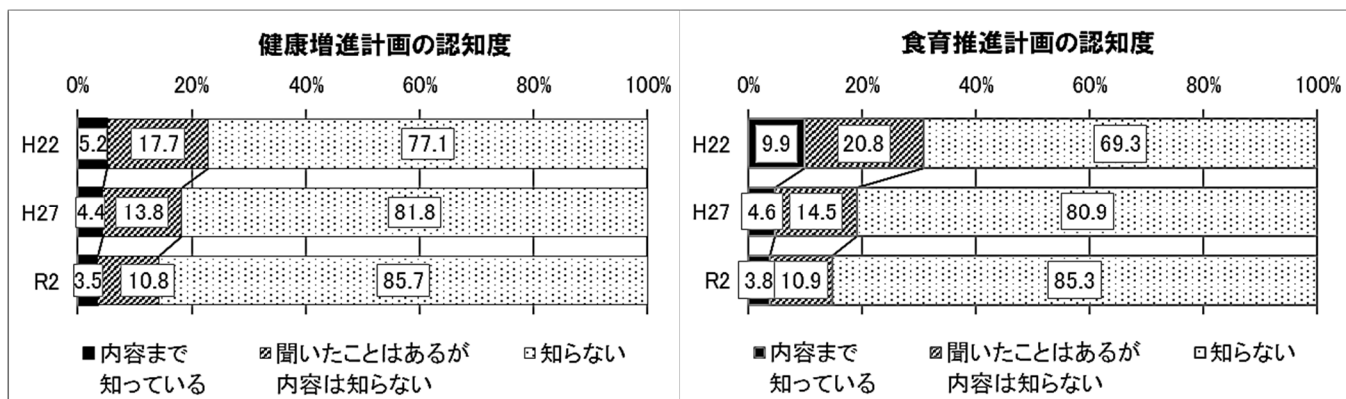
受動喫煙を受ける機会は、平成 22 年と比較し全ての場所で減少しています。



(8)健康増進計画・食育推進計画の認知度

健康増進計画の認知度は、年々減少し、聞いたことはあるが内容は知らない人の割合を含めても14.3%となっています。

食育推進計画の認知度についても、増進計画と同様に聞いたことはあるが内容は知らない人の割合を含めても14.7%と低い状況です。

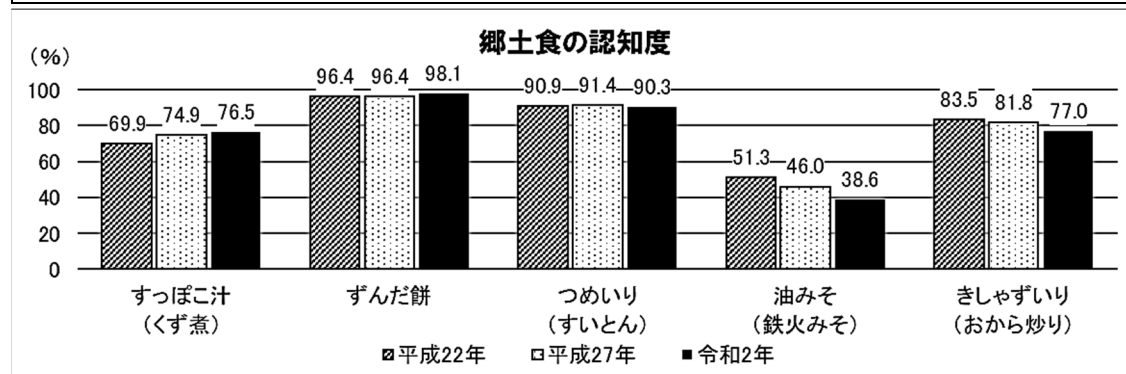


(9)食育について

①郷土食の認知度

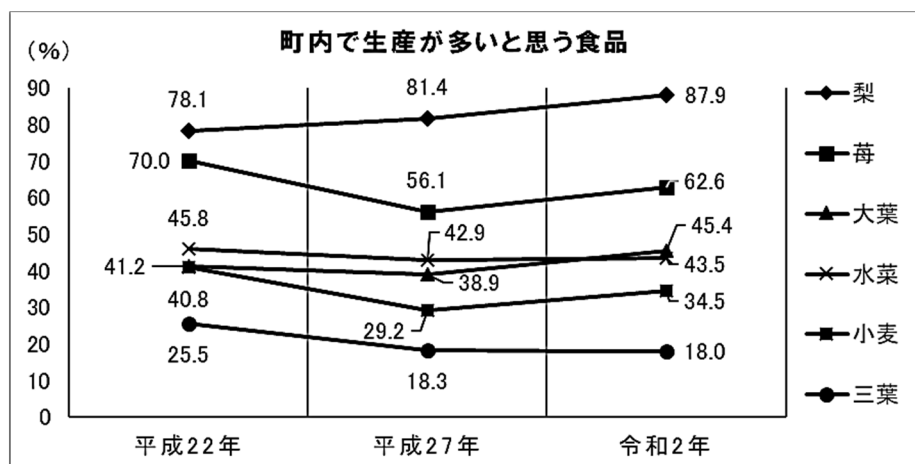
郷土食の認知度(「知っている」「食べたことがある」「作れる」と回答した人の割合)について、すっぽこ汁は平成22年70%から令和2年76.8%と増加し、ずんだ餅は平成22年96.4%から令和2年98.1%と微増しています。

一方、つめいり、油みそ、きゃずいりは、平成22年と比較し減少しています。



②町内特産物の認知度

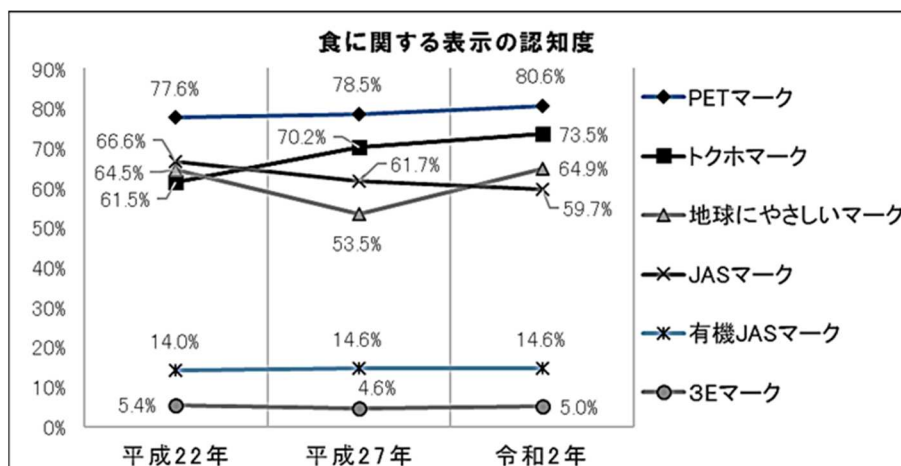
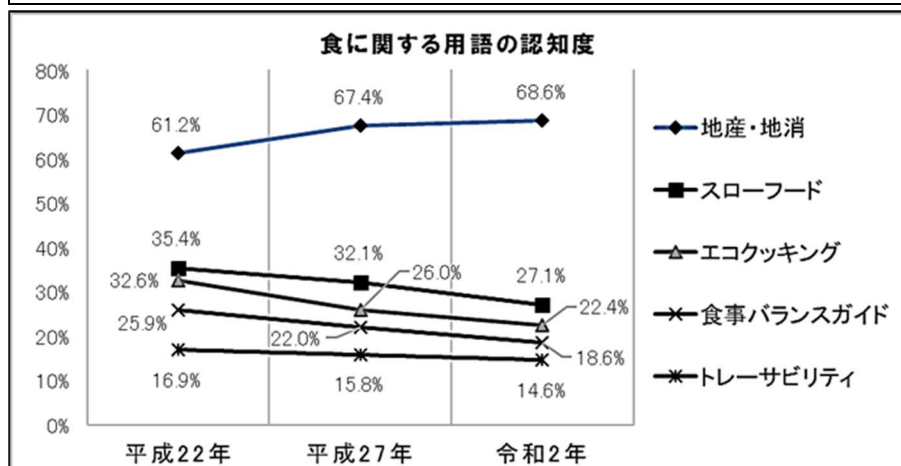
町内で生産が多いと思う食品(複数回答)について、本町の特産物に絞って見ると、梨、大葉で増加、水菜で横ばい、苺、三葉で減少となっています。また、令和3年9月から学校給食での活用が話題となっている小麦についても、平成22年40.8%から令和2年34.5%と減少しています。



③食に関する用語や表示の認知度

食に関する用語の認知度をみると、地産地消は平成22年と比較し61.2%から68.6%と増加していますが、その他の用語は減少傾向となっています。

食品表示の認知度について、平成22年と比較すると、「特保マーク(特定保健用食品)」が61.5%から73.5%と上昇した以外は、ほぼ横ばいとなっています



④食品購入時の意識

食品購入時に表示を必ず見る人の割合について、男女とも消費期限・賞味期限が最も高くなっています。平成 22 年との比較では、男性の消費期限・賞味期限と栄養成分表示が微増している他は減少しています。

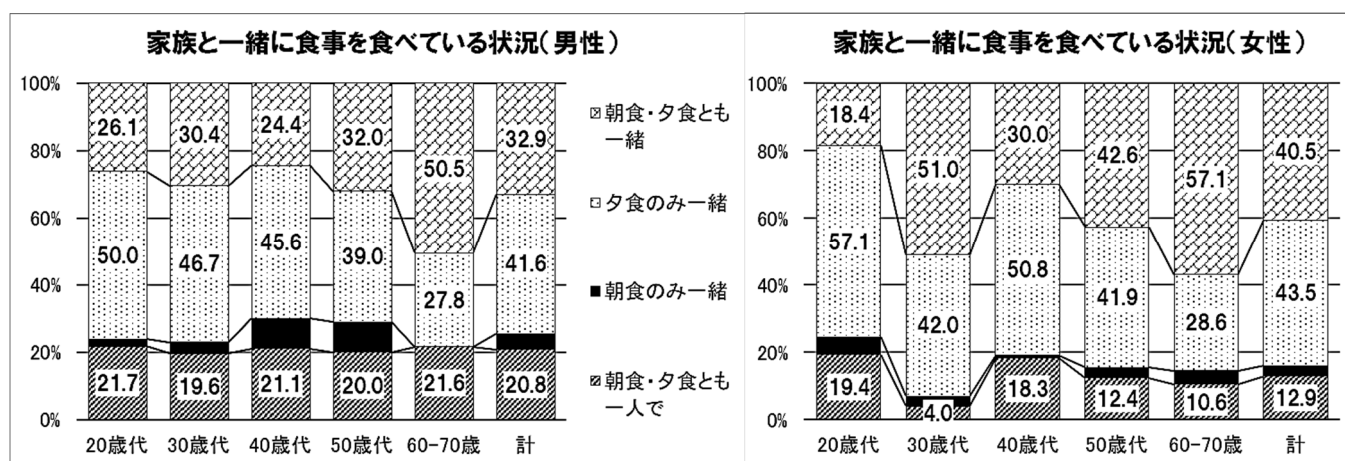
食品購入時に表示を必ず見る人の割合

男性	消費期限・賞味期限	原材料名	栄養成分表示	製造者・野菜等生産地
平成22年	62.0%	22.1%	12.7%	27.8%
平成27年	63.9%	21.9%	10.1%	28.8%
令和2年	63.9%	18.5%	13.7%	21.2%

女性	消費期限・賞味期限	原材料名	栄養成分表示	製造者・野菜等生産地
平成22年	87.4%	43.4%	24.3%	48.8%
平成27年	87.9%	41.1%	25.6%	48.9%
令和2年	84.0%	29.4%	19.7%	39.1%

⑤共食の状況

家族と一緒に食事を食べる状況について、朝食・夕食とも一人で食べている人の割合は、男性 20.8%、女性 12.9%となっており、女性より男性が多くなっています。年代別でみると、女性の 30 歳代で共食の割合が最も高くなっています。



一人で食事を食べる人がいる理由

(%)

総数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
ひとり暮らし	10.3	8.0	4.8	9.0	17.0	9.4
家族と時間が合わない	86.3	85.7	90.3	85.7	78.0	85.7
家族と食べる習慣がない	0.0	0.9	1.4	0.8	2.0	0.9
一人が都合がよい	3.4	5.4	3.4	4.5	3.0	3.9

※食事を家族と食べないことがある人(「朝食・夕食とも一人」「朝食のみ一緒」「夕食のみ一緒」と回答)が回答

⑥感染症予防の意識

感染症予防のため、習慣的に手洗い(帰宅後、食事前など)をしている人の割合は、全年代で高くなっています。

感染症予防のため、習慣的に手洗い(帰宅後、食事前など)をしている人の割合

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-70歳	計
男性	96.8%	94.4%	94.7%	96.0%	96.0%	95.6%
女性	95.9%	97.1%	99.1%	97.7%	97.6%	97.6%
計	96.3%	95.9%	97.1%	97.0%	96.9%	96.7%